

金成マツ筆録ノートのアイヌ語口承文学テキストの 原文対訳及び解釈

金田一京助宛ノート散文説話

「カワウソが私に化けるウェペケレ (esaman i=sinere uepeker)」

(前半)

藤田護

キーワード：アイヌ語、金成マツ、口承文学、散文説話

1. はじめに——資料とその特徴

本稿では、藤田 (2021 および 2018) に引き続き、金成マツが筆録した口承文学のうちで、散文説話を翻刻し、現代表記とともに日本語訳を付して公刊する。金成マツは金田一京助、知里真志保、そして一部は久保寺逸彦といった研究者に、自らがアイヌ語で筆録したノートを残しているが、今回は藤田 (2021) に引き続き金田一京助宛筆録ノートのなかの散文説話の一つ、「カワウソが私に化ける物語 (esaman i=sinere uepeker)」に取り組む。この物語は長いため、紙幅も考慮して前半と後半に分けることとし、本稿ではその前半をとりあげる。この取り組みを通じて、金成マツが伝承し、記録した口承文学が、一般に利用しやすい形となる基礎資料を整備することを目指している。

これまで、金成アシリロから金成マツが聞いた物語を蓮池悦子が公刊し、大須賀るゑ子が中心となった「白老やさしく・楽しいアイヌ語教室」が盤木アシンナンおよび豊年ヤイコレカから金成マツが聞いた物語を公刊してきている (白老やさしく・楽しいアイヌ語教室 2021, 2020, 2017、蓮池の仕事については同 2017 の文献一覧を参照)。これらはいずれも、金成マツが知里真志保に宛てて残したノートに記されたものである。金田一京助に宛てたノートからの散文説話の翻刻・現代表記・翻訳が刊行されるのは、藤田 (2021) に続いて 2 話目となる。なお、萱野茂が『炎の馬——アイヌ民話集』(萱野 1977) において、金成マツによる金田一京助宛ノートから幾つかの散文説話をとりあげて訳出・紹介しており (萱野 1977)、本稿で公刊する物語はその一つとしてとりあげられている。

翻刻にあたっては、北海道立図書館にマイクロフィルムで所蔵されている資料の複写を参照するとともに (請求番号 M/411 『金成マツ筆録ユーカラ・ノート [マイクロ資料] 7』)、千葉大学に所蔵されている『金田一京助スクラップブック』の複写版を参考にした (M-14-2 および P-16-1 : cf. 欠ヶ端 2019)。この物語は、昭和 4 年 (1929 年) に筆録されたという点以外には、詳細な

筆録の日付が記録されていない。ただし、その前の「Chiwashpetunmat」には昭和4年6月20日、その後の「Pon Oina」には昭和4年9月16日の日付があるので、そのあいだのどこかということになりそうだ。この物語が記録されているノートの表紙には、冒頭に「XIX」および「昭和4」と記されており、以下に「UNARPE TURESH (IV)」とその下に小さく「小母わざも」の曲(四)」、その下の行に「ESAMAN USHINERE UYEPEKER (I)」とその下に小さく「河瀬に化ける昔話(一)」と記されている。ただし、この題名は、下の翻刻のp.1の1行目と照らし合わせると、実際にはUSHINEREではなくISHINEREであるようだ。上述の『金田一京助スクラップブック』においても、同じタイトルが同じ(と思われる)筆跡で記されており、どうもこれは金田一京助による整理の際に生じたようである。この単語冒頭のIは、自動詞を形成する接頭辞か、主人公の「私」を指し示す4人称の目的語の人称接辞であり、それぞれ「川瀬が化ける昔話」あるいは「川瀬が私に化ける昔話」という題名になる。金成マツには、主人公を指し示す4人称の主語や目的語の人称接辞が題名に入った記録が幾つかあるため、ここでは後者(「川瀬が私に化ける昔話」)であると判断し、本稿の題名や以下の記述でもそのように扱っている。

この物語は、金成マツ自身によって uyepeker「昔話」に分類されているが、オタスツとオタサムのコタンを舞台にしている点といい、主人公がみなしごの出自である点といい、英雄叙事詩——特に道東における——と共通する側面をもち、これは英雄叙事詩を重視した金田一京助に対し金成マツが意図的にこの物語を選んで筆録したのでろうか、とも考えたくなる。また、英雄叙事詩で金成マツが用いる表現が頻出しており、【ユーカラ集】および【ユーカラシリーズ】などと共通する表現については、なるべく脚注で示すことを心掛けた。

金田一京助宛筆録ノートにおいても、誰から聞いた話であるかを金成マツが記している場合があるが、この物語にはそのような記述はない。このような場合は金成マツの母のモナシノウクから伝承されたものであるかとも考えうるが、断定することは難しい。

参考文献一覧

欠ヶ端和也(2019)『『金田一京助アイヌ語スクラップブック』について』『千葉大学ユーラシア言語文化論集』第21号、千葉大学ユーラシア言語文化論講座、pp.1-31。

萱野茂(1977)『炎の馬——アイヌ民話集』すずさわ書店。

白老楽しく・やさしいアイヌ語教室(2021)『知里ハツ口述ウエペケレ5話の研究』白老楽しく・やさしいアイヌ語教室。

白老楽しく・やさしいアイヌ語教室(2020)『盤木アシンナン口述ウエペケレ8話の研究』白老楽しく・やさしいアイヌ語教室。

白老楽しく・やさしいアイヌ語教室(2017)『金成アシリロ口述ウエペケレ10話の研究』白老楽しく・やさしいアイヌ語教室。

藤田護 (2021)「金成マツ筆録ノートのアイヌ語口承文学テキストの原文対訳及び解釈——金田一京助宛ノート散文説話「金の煙草入れ (konkani tampakop)」」中川裕編『アイヌ語・アイヌ文化研究の課題』千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書、第 358 集、pp.15-42。

藤田護 (2018)「金成マツ筆録ノートの口承文学テキストの原文対訳及び解釈——散文説話「六人の山子 (iwan yamanko)」」中川裕編『アイヌ語の文献学的研究 (3)』千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書、第 325 集、pp.25-65。

2. ものがたり

僕はおじいさんに育てられて暮らしている。僕たちの家は大きく、神宝に満ち溢れ、宝壇の手前に僕は座っている。おじいさんは、年を重ね、立派な様子で右座に座っている。僕は弓遊びの小さな弓矢で家の柱に当てて一人遊びをし、おじいさんは僕に対して何度もうんうんと頷きながら可愛がってくれる。毎日そのように僕たちは暮らしている。

今では僕も少し大きくなり、容貌も美しくなる。ある日のこと、おじいさんがこう言う——「孫よ、ずっと前にお前の両親がカムイの世界へと行ってしまったときに、私にこう言い残したのだ——『この私たちの村はオタスツだが、海沿いの血縁の村モイサムの者 (モイサムンクル) が兄一人妹一人で、お前が大きくなったらその妹と結婚し、このカムイの住み処オタスツをお前が治めるのだ』と。お前がこれくらいになれば、妻をとれるから、明日お前の妻モイサムの女性 (モイサムンマツ) を訪ね、二三日逗留して遊んで、美味しい物を食べて、お土産を持って帰ってきてくれ。僕は身寄りが無いのだと思っていたが、親類がいて、またそこの女性と許嫁として育てられた話を聞いて、とても嬉しく思う。

翌日におじいさんは、籠に骨柄の太刀 (タシロ) を入れて僕に持たせ、「夫婦は長い間会わないでいると、悪いカムイが嫌がらせをするものなのだよ。さあ早く会いに行きなさい」と言う。おじいさんのおかげで僕は立派に成長したのだから、言うことを蔑ろにしてはいけないと思って身支度をする。浜へと向かうと、人の少ない僕の村の上が平らかに臨まれ、心楽しくなる。

モイサム村への道半ばであろうと思う場所に到着したところ、沖の方から大きなカワウソが上陸し、水をふるい落とし、僕の前を行く跡がある。少し進むと、その片方の足が人間の足になり、もう少し進むと両方の足が人間の足になって進んでいく。すぐ後ろを僕は進むと、人がモイサムと呼ぶ村の上面が明々と見え、村の中央には大きな家が荘厳な様子で立っている。村と浜をつなぐ道を僕は通って、その家のところまでやって来て眺めると、僕の兄のモイサムンクルは狩上手らしく、クマの頭骨を祀る木やシカの頭骨を祀る木が林立し、クマ肉やシカ肉や魚を干す掛け竿が林立して、壮麗である。その林の端の方には籠や身支度の物が置かれていて、どうやら先に来た者が、家の外で身支度を解いて入ったようだ。

僕は来訪を知らせる咳ばらいをすると、家のなかで声がして、それから玄関の土間の入り口から覗き見る者がいる。僕は女性というものを初めて見たが、許嫁のモイサムンマツはたいそう美しく、胸の上に霞を引きまとい、大事に育てられたものらしく、どこまでも賞賛すべきほどだ。彼女は僕の全身をくまなく見ると、さっと顔色を変えて、「不思議なことに、たった今、私の小さな兄（夫となるべき人）であるオタストウンクルが尋ねてきて、彼を家に入れたのですが、また同じような衣服をまとった人が、このように来るのですね。先に来た人は色黒で、今来た人は色白で、でもよく似ているのです。私の兄は山獺に行っていて、そのあいだに人が訪ねてきて」と言う。家の中からは、「俺が訪ねてきて、腹が減っているのでさっさと煮炊きをするように言ったのだが、何をこう男でも来るようでおしゃべりをしているんだ」と、僕の声と少しも変わらない声がしてびっくりする。

ひどい怒りがこみ上げて、家の中へと僕は飛び込み、あたりを見ると、なんとまあモイサムンクルは長者であり、宝物が家に満ちて、僕は感嘆する。横座には、本当に僕のような服を着た色黒の人間が座っている。そいつが僕を見ると、目の色が燃えるようで、「今日初めて俺の妻を訪ねてみたら、俺にそっくりな人間が来る様子で、何か魔物が俺に化けているのではないか」と、僕が言うつもりの方を僕よりすら言っただけで、叱りつける。僕は、怒りなのか何なのか、火の光が目の前に交錯するように思い、太い燃えさしをさっと取り、「この悪いカワウソが、カムイたちが見ている前でいたずらが過ぎるぞ。さあカムイたちよ、振り向いて僕を助けてくださいな」と言って、そいつをめった打ちにすると、相手はしなやかな細枝が跳ね返るように僕に掴みかかり、何とまあ力が強い。僕は負かされそうになり、カムイの救援を乞い、僕の妹（許嫁）は驚きの叫びを放ち、骨柄の太刀（タシロ）で斬ったり突いたりをする、その化け物は「この悪い妻は何をしているんだ、相手を斬って突け」と言い、僕も彼女のことを励ます。日暮れ時から暗くなっても闘いを続けたあげくに、カワウソのやつがパッと立った隙に、僕は骨柄の太刀（タシロ）で相手の喉を一気に斬り、相手は骸となって横たわる。

僕は疲れ切ってしまうが、妹（許嫁）が料理したものを急いで食べ、「後からまた来るから、自分の身をよく守るのだよ。今日良い具合に僕が来て、化け物を協力して殺すことができた。カムイのおかげなのだろう。でも、これからカムイの意向を見ようと思うので、僕は自分の家に帰るよ」と言い、僕は化けカワウソを掴み、外に出て、走る投げ輪のように浜辺へと速く走り、カワウソが上陸した場所へとやって来ると、カワウソを海面へと投げ入れて、このように言う――「海を守護するカムイ（アトゥイコロカムイ）よ、カムイはカムイ同士で仲睦まじく、人間は人間同士で仲睦まじくするものだが、このように海からカワウソの化け物が上陸して、僕に化けて、あと少しで許嫁の女を盗まれるところだった。おまけに、あと少しで力比べで僕を負かしそうになり、たいへんな災難に遭った。ひどく僕は怒っている、このカワウソがひどく恥をかき悪い死に方をするように罰しようと思ったが、あなた（アトゥイコロカムイ）が分かっているでしょ

うから、あなたの意向に従うつもりですので、よきにはからってください」と僕は言って、また走るように飛ぶように、僕の家の方へ出る道を通って帰ってくる。

まさかそんなことがあるとは思わなかったが、僕の家の方の灯りが明々として、人の声に満ちている。僕は驚いて、こっそりと近づいて窓から中を眺めると、右座に僕のおじいさんが座り、横座には白い小袖を着たカムイと黒い小袖を着たカムイが座り、その間に白い小袖を着たカムイの女性と黒い小袖を着たカムイの女性が、かしこまって座っている。そこには海の獲物の美味しいような背負い荷と、山の獲物の美味しいような肉の背負い荷があり、カムイの女性たちの後ろには背負い袋がある。カムイたちは僕のおじいさんと顔見知りのようで、よもやま話をして、カムイの話ばかりを語り合い、二つ、三つの笑顔の言葉を交わす。カムイたちは、「さあ料理をしましょう」と言い、女性たちは六本のつるの付いた大鍋で煮炊きをして、鍋を上げる。僕のおじいさんは、火の翁も出てくるように、また火の釜にも食事を差し出すように言うと、炎のまん中が持ち上がって、赤い小袖を着て赤い大きな煙草入れを手にしたカムイのお爺さんが現れ、皆が互いに挨拶する。カムイの女性たちが食べ物配り、薄造りのお膳一杯の高盛のご飯を僕のおじいさんに先に差し出す。カムイたちは拝礼（オンカミ）をしながら食事をし、火の釜の食事もお火のそばに供え、語り合っている。僕はびっくりしているうちに、食事が終わった。

今や東雲の朝と闇の暁が行き違い（夜が白み始め）、今はじめて来たと思わせて急いで戸口を僕は入ると、カムイたちはいっせいに僕の方を向き、ひどく驚いて、二人のカムイは神窓から、カムイの女たちは南側の窓から外に出て、火の翁は炎の中へと飛び込み、僕のおじいさんは宝壇の上へと影のように薄れて消えて、何も見えなくなってしまう。僕は本当に驚く。これまで僕を育ててくれたおじいさんに、これからは狐ばかりでも見つけて、僕が養って大事にしようと思っていたのに、おじいさんは何も言わずにどこに行ってしまったのだらうと、僕は涙をこぼして炉の前に座る。そうすると、疲れているものだから眠くなってきた、寝台へと行くのも億劫なので、火のそばで自分の袖を伸ばして横になると、良い眠りが僕を絡めとる。

すると、枕上に僕のおじいさんがいかにもカムイらしい様子でいて、僕の方に向き直り、にっこりとほほ笑んで、うなづきながら、このように言う――「人間の孫よ、わしは人間として小さい頃からお前を育てたのではない。わしはこの家を守るカムイ（チセコロカムイ）なのだ。むかしお前の父オタストゥンクルは、たいへんに心の美しい長者で、本物の淑女と連れ添い、暮らし向きが良くなり、お前はその一人息子として生まれたのだ。

（以下、後半へ続く）

3. 翻刻・現代表記・原文対訳

留意点

原ノートは、それぞれのページの左端だけを使って書かれており、したがって頻繁な改行がある。改行はすべて「／」で示している。またアルファベットは筆記体で、金成マツの他の筆録と比べても、相当に詰めて書かれており、そのため少しでも切れ目が見える場合には、そこにスペースがあると判断しているが、そこにスペースが本当にあるかどうかの判断はなかなか難しい。また、切れ目がない場合でも文字のつながりを少し長めに伸ばしている際に、スペースがあると判断できる場合もあるかもしれない。ノートにはページ番号が振っていないため、筆録の最初のページを1とした通し番号を振った。以下は、ノートのページごとに翻刻、現代表記、および翻訳を示していく。

現代表記については、ここまで千葉大学の各種刊行物で用いられた表記方法を、踏襲している。なお、翻刻については厳密にページに従って記しているが、現代表記と翻訳の部分については、ページをまたぐことで理解が困難になると思われる語句のつながりについては、前のページか後ろのページに移してまとめた箇所が存在する。また、現代表記と翻訳については、整理の便宜を考え、ページ数とそのページ内の行番号を組み合わせた行番号を、それぞれ振ってある。

文献略号

- 【千歳辞典】中川裕（1995）『アイヌ語千歳方言辞典』草風館。
- 【沙流辞典】田村すず子（1996）『アイヌ語沙流方言辞典』草風館。
- 【萱野辞典】萱野茂（2002）『萱野茂のアイヌ語辞典（増補版）』三省堂。
- 【神謡集辞典】切替英雄（2002[1989]）『アイヌ神謡集辞典——テキスト・文法解説付き』大学書林。
- 【久保寺辞典稿】：久保寺逸彦（2020[1992]）『アイヌ語・日本語辞典稿』（久保寺逸彦著作集④）草風館。
- 【奥田語彙】奥田統己編（1999）『アイヌ語静内方言文脈つき語彙集（CD-ROM つき）』札幌学院大学。
- 【人間篇】知里真志保（1975[1954]）「分類アイヌ語辞典 人間篇」『知里真志保著作集別巻2』平凡社。
- 【知里真志保ノート】複数著者（2002-2009）『知里真志保フィールドノート』（1）～（7）、毎年刊行、北海道教育委員会。
- 【民譚集】知里真志保編訳『アイヌ民譚集——付、えぞおばけ列伝』岩波書店（岩波文庫）。
- 【ユーカラ集】金成マツ筆録、金田一京助訳注（1959-1975）『ユーカラ集 I～IX』三省堂。
- 【ユーカラシリーズ】金成マツ筆録、萱野茂・蓮池悦子・萱野志朗・切替英雄・高橋靖以訳注（1978-）『ユーカラシリーズ』北海道教育委員会。

【神謡聖伝】：久保寺逸彦（1977）『アイヌ叙事詩神謡・聖伝の研究』岩波書店。

【静内伝承】複数著者（1991-1995）『静内地方の伝承 I～V——織田ステノの口承文芸（1-5）』静内町教育委員会。

【ELPR 小田イト】ブガエワ・アンナ（2004）『アイヌ語千歳方言の文法と口承文芸——小田イトの個人語』文部科学省特定領域研究「環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究」成果報告書 A2-045。

【沼田資料】千葉大学アイヌ語研究会（2021）『沼田武男「探訪帖」——アイヌ語十勝方言テキスト集』千葉大学文学部ユーラシア言語文化論講座。

p.1

【原文翻刻】

1. Esaman ishinere uyepeker

Akor ekashi / Ireshpa wa / rammakane / katkorkane / okai an/ Aunihi / tanboro / chise / kamui / korbe / eekirtekka / ikittukarita / Amsetkashi / Aehorari / Akor / ekashi / onnep anchiki / neike huike / Itak kushkunika / isam / Rekihi / Sepreraruhu /

【現代表記・翻訳】

0101 esaman i=sinere uepeker¹

カワウソが僕に化けるウエベケレ

0102 a=kor ekasi i=respa wa ramma kane katkor kane okay=an.

僕のおじいさんが僕を育てて、いつもいつも[そうして]僕たちは暮らしている。

0103 a=unihi tan poro cise kamuykorpe eekirtekka².

僕たちの家、この大きな家には、神宝が満ち溢れている。

0104 ikir_ tukari ta amset kasi a=ehorari.

宝列の手前に、寝台の上に僕は座っている。

0105 a=kor ekasi onnep an³ ciki neykehuyke itak kus kuni ka isam⁴.

おじいさんは年を取って、なにひとつ非の打ちようもない。

¹ この行が筆録者の金成マツ自身が書き込んだ題名である。

² tan poro cise / amanenpoki / ciipiyere / kamuykorpe / eekirtekka 「この大きな家の 梁の下 ぎっしりと押し上げて 神宝 いっぱいに」（【ユーカラ集7】、p.89）；tan poro cise / upsororke / kamuykorpe / eekirtekka 「この大きな家 の内部 神宝が ぎっしりと」（【ユーカラ集6】、p.105）。以下、英雄叙事詩で用いられる表現が頻繁に使われる。

³ onnepan chiki （【ユーカラシリーズ35】2304行目、要確認）

⁴ neykehuyke itakkus uske oar isam 「どことしていいがかりをつける所は全くない」（【萱野辞典】、p.355）；neike huike itak kush ruwe oararisam 「どこ一つ非難すべき所なし」（【久保寺辞典稿】、p.166）。これらの用例からすると、itak kus kuni h_i ka isam ではないかとも考えられるだろうか。

0106 rekihi sep reraruhu
その髭は広い胸へ

p.2

【原文】

chikoeseshke / Inau shirine / koretakaune / kimui / otobi / neyakka / Inau / shirine / koretakaune
/ kamui / shirine / shisosamne / Ehorari / Akshinot / ponku / pon ai / Akor wa / rupne / Ikushbe /
nokan / Ikushbe / Aeaietoko / toknatara /

【現代表記・訳】

- 0201 cikoesseske⁵ inaw siri ne koretakawne⁶.
一杯に広がり、イナウのように白く波打つ（?）。
0202 kimuy otopi ne yakka inaw siri ne koretakawne.
頭髮も、イナウのように白く波打つ（?）。
0203 kamuy siri ne siso sam ne ehorari⁷.
神々しい様子で右座側に座っている。
0204 aksinot pon ku pon ay a=kor wa
弓遊びの小さな弓と小さな矢を僕は持って、
0205 rupne ikuspe nokan ikuspe a=eyetoko-tokratara⁸
太い柱、細い柱に矢を向けて、ぽつんぽつんと当て、

⁵ cikoesseskekar 「(家並みが) びっしり続いている」(【沙流辞典】、p.52) ; Chiko-seshke 「v.i. closed, shut up」(【バチラー辞典】、p.78)

⁶ この単語の用例が他に見当たらず、訳は『炎の馬』における萱野茂によるものを踏襲してみたが、そもそも語構成として *retar* が果たして入っているのか自体、よく分からない。

⁷ 【ユーカラ集】を見ると、*siso sam ta* とともに *siso sam ne* というものもあり、*siso sam ne / i=eranke* 「右座のわきに 我をおろし」(【ユーカラ集 3】、p.90)、*siso sam ne / ape teksam ta / ri cienununpe / a=i=canukar* 「右座の側に 炉のそばに 高い枕を 我かわれていた」(【ユーカラ集 5】、p.92)、*siso sam ne / a=eare* 「右座の側に 我座らせた」(【ユーカラ集 5】、p.317)、*siso sam ne / ehorari* 「右座の側 (がわ) へ すわる」(【ユーカラ集 7】、p.102、p.354) などが見られる。

また、【ユーカラ集】以外でも、*orowano siso sam ne katkemat kamuy a=eturikar* 「それから右座側にその女性の骸を横たえた」(「鹿の腹の中で赤ん坊がなく 2」金成マツ筆録 (金成アシリロ口述) 『アイヌのくらしと言葉 5』北海道教育委員会、1999 年、p.211) ; *siso sam ne ehorari h_ike itak hawe ene okay h_i* 「右座の方に座っているものが、言うことはこうだった」(知里ハツ「4-2 女装のポイヤウンベがアトゥイルブンクルと戦う」【知里真志保ノート 4】、p.127)。

比較すると、どうも事前に主語や様子が分かっていて、座ったり、座らせたり、横たえたりする場合には *siso sam ne* が使われる傾向にある。右座にあるものの具体的な描写が後ろにきて、そこで初めて視線が向く場合には *siso sam ta* が使われる傾向があるか。

⁸ 金成マツ筆録の英雄叙事詩に頻出する表現。例として、*rupne ikuspe / nokan ikuspe / a=eyayetoko- / toknatara* 「大きな柱 小さな柱に われ射とばす ぽつんぽつんぽつん」(【ユーカラ集 3】 p.38)

p.3

【原文翻刻】

Aeyaiomina / ushikane / yaitura / shinot / anko / Akor / Ekashi / otuhenkuror / orehenkuror /
Ikoanu / Ihenkotpa / keshto / ramma / okai an / tane kusu / Semorborono / Shikup / pirika /
Annoine / yaikota / neyakka / yaireka an kane / Anan /

【現代表記・訳】

- 0301 a=eyayominausi⁹ kane yayturasinot=an ko
僕は一人笑いをして、一人遊びをすると、
- 0302 a=kor ekasi otu henkuror ore henkuror i=koanu i=henkotpa.
おじいさんは、二つの嬉しそうな顔き、三つの嬉しそうな顔きを僕に向け、僕
を可愛がる。
- 0303 kesto ramma okay=an.
毎日同じように僕たちは暮らしている。
- 0304 tane kusu¹⁰ semor porono¹¹ sikuppirka=an¹² noyne
今では（？）少し大きくなり、美しく僕は成長するようで
- 0305 yaykota ne yakka yayreka=an¹³ kane an=an.
〔容貌について〕我ながら自惚れている。

p.4

【原文翻刻】

Shine ani wano / Akor / Ekashi / ene itak i / Aresu / nitpo / somoka / mat sak / Ainu / eneruwe /
tapan / teeta kane / eshinrit / utara / kamui / orun paye ita / Ikoitak / hoppa / hawe / ene okai i /
tan akor / kotan anakne / otasut newa

⁹ eyayominausi < e-yay-o-mina-usi (...で・自分・その尻・笑い・...を...につける) ...のことを一人笑する (【沙流辞典】、p.157) ; ...をして一人で笑う (【奥田語彙】、p.32)

a=eyayomina-/usi kane 「われは笑い、喜ぶ」 (『ユーカラ集3』、p.35)

¹⁰ tane kusu という表現の用例が他に見つからない。金成マツの他の英雄叙事詩では tane ne kusu と書かれることが多く、ここでは ne を抜かしたのだろうか。

¹¹ この semor porono という表現は、沙流辞典では「かなり」、久保寺辞典稿では「すこし」などとなっており、程度の解釈が両者で違うようである。この表現は【ユーカラ集】にも用例が多いが、金田一京助も「やや大きく」(例：【ユーカラ集4】、p.46)、「よほど大きく」(例：【ユーカラ集5】、p.29) と訳が一定していない。

¹² pirka sukup(sikup)の用例は数多くあるが、sukup(sikup) pirka の用例は多くない。sikup pirka p a=ki (【静内伝承III】、p.9 (0932))

¹³ yayreka : (自動詞) 自分の美貌を自慢する (【沙流辞典】、p.864)

aokay ne yakka sino siretokkor=an noyne yaykota ne yakka yayreka=an kane 「私だってとても美人だと、我ながらうぬぼれつつ」(「1.1 小男来りて、破椀にて食はしめらるゝ話」【知里真志保ノート(4)】、pp.312-313)

【現代表記・訳】

- 0401 sineani wano a=kor ekasi ene itak h_i:
ある日のこと、僕のおじいさんが次のように言う――
- 0402 “a=resu nitpo somo ka matsak aynu e=ne ruwe tapan.
「わしの育てる孫よ、お前は妻をもたない人間ではないのだよ。
- 0403 teeta kane e=sinritutar¹⁴ kamuy or un paye h_i ta
はるか前にお前の両親がカムイの世界へと行ってしまったときに、
- 0404 i=koitakhoppa hawe ene okay h_i
わしに言い残した話はつぎのようなことだ――
- 0405 ‘tan a=kor kotan anakne Otasut ne wa
『この私たちの村はオタスッであって、

p.5

【原文翻刻】

Armoisamta / Airkar / kotan / moisam / unkur / yayirwakikor / shinetureshne / neimenoko / eboro
chiki / Ekor wa / tapan / kamui / Ewak i / eebunkine wa / epenkir / echiu / epankir / echiu /
kusunena ari / haweokai / ruwene na / tane pakno / Eanko

【現代表記・訳】

- 0501 armoysam¹⁵ ta a=irkar¹⁶ kotan Moysam un kur
海沿いの我々が血縁をもつ村モイサムに住む者（モイサムンクル）が、
- 0502 yayirwakikor sine tures ne
男の兄弟は自身だけで、一人の妹がいて、
- 0503 ne menoko e=poro ciki e=kor wa¹⁷
その女性はお前が大きくなったら結婚し
- 0504 tapan kamuy ewak _hi e=epunkine wa
このカムイが住む場所をお前が守護して、
- 0505 e=penkireciw e=pankireciw¹⁸ kusu ne na’
お前が治めるのだぞ』

¹⁴ ここでは人称接辞が付いているにもかかわらず所属形になっていない。ただし、後ろの p.20 においては a=sinritutari という形が出てくるため、ここではうっかり所属形のままにしてしまったのかもしれない。

¹⁵ armoysam : 海沿ひに、湾の向側（【久保寺辞典稿】 p.23）；「浜辺」（湾の対岸のことか）【アイヌ神謡集辞典】 p.248）

¹⁶ irkar : 血を引く、血筋を引く、血縁がある、親類である（【人間篇】 p.485）

¹⁷ この引用された言葉は、主人公の両親がおじいさんに対して言い残したのだと思われるが、その後に伝えられるべき主人公が 2 人称で述べられていることは興味深い。

¹⁸ epenkir-echiu / epankir-echiu / eki kusu-ne na 「上つ代々より継承し 下つ代々への継承を お身がするのだよ（【ユーカー集 4】 pp.134-5）

Pengirechiu-pangirechiu : 統率する v.t. To govern. To rule over（【パチラー辞典】 p.388）

0506 ari haweokay ruwe ne na.

と言ったのだよ。

0507 tane pakno e=an ko anakne

お前がこれくらいまでになったら、

p.6

【原文翻刻】

anakne / mat ekor / Eashkai kusu / nisatta / moisam / ummat / Emachi / koshinewe wa / tutko /
rerko / tori kane / shinot / orowa / shisakbe / keran / chikoikip / eechiki / nep ikomekare wa /
Ikore yan ari / hawe an / utarsak kunip / Ane ruwene kuni / Aramu awa

【現代表記・訳】

0601 mat e=kor easkay kusu

お前は妻をとれるから、

0602 nisatta Moysamunmat e=maci kosinewe wa

明日モイサムに住む女（モイサムンマツ）、お前の妻をを訪ねて

0603 tutko rerko tori kane sinot.

二日三日逗留して遊びなさい。

0604 orowa sisakpe keran cikoykip e=e ciki

そうして、他にない美味な肉をお前は食べたら、

0605 nep i=komekare wa i=kore yan”

何かわしに土産に持って帰っておくれ」

0606 ari hawean. utarsak kuni p a=ne ruwe ne kuni a=ramu awa

と言う。親類縁者もない者で僕はあるのだろうと思っていたが、

p.7

【原文翻刻】

utar akor / usa mat / koshikup / Anhawe / Anuchiki / keutum otta / nepsui / Aenupet newa / humash
/ nankora / shisembirun / shikiru anko / Aemina kane / nei shimke / Akor / Ekashi / pake omap
oro / pone un / tashiro / omare wa / Ianire wa / pirika / kuru ari

【現代表記・訳】

0701 utar a=kor usa mat kosikup=an hawe a=nu ciki

僕には親類がいて、また女性と許嫁として育ったという話を聞いて、

0702 kewtum or_ ta nep suy a=enupetne wa humas nankor y_a.

心の中で何とまた喜んだ様子であろうか。

0703 sisempir un¹⁹ sikiru=an ko a=emina kane

後ろを振り向きながら僕はそのことで笑みをもらし、

¹⁹ shisembir un : shi 「おのが」 sempir 「蔭、うしろ」 -un 「へ」（【ユーカラ集1】p.185）

- 0704 ne simke a=kor ekasi pakeomap²⁰ oro
その翌日に僕のおじいさんは籠に
- 0705 pone un tasiro²¹ omare wa i=anire wa
骨柄の太刀（タシロ）を入れて、僕に持たせ、
- 0706 “pirkakur ari
「夫婦という

p.8

【原文翻刻】

reokaibe / Anakne / ohonno / somo / unukarko / uturuhi / wenkamui / irara / wentep / tapokaina / hokure / tunashno / oman / wa / Emachihi / nukar / ari hawe an / Akor / Ekashi / Ankushkeraipo / Nishpa / shikup / Aki awa / pirika yep

【現代表記・訳】

- 0801 re okay pe anakne ohonno somo unukar ko
名を持つ者同士は、長い時間会わないと、
- 0802 uturuhi wen kamuy irara²² wente p tapokay na.
その間に悪いカムイがいやがらせをして駄目にしてしまうものなのだよ。
- 0803 hokure tunasno oman wa e=macihi nukar”
さあ、早く行って、お前の妻に会え」
- 0804 ari hawean.
と言う。
- 0805 <a=kor ekasi an kuskeraypo nispa sikup a=ki awa
<おじいさんがいてくれたおかげで、僕は首領として成長したところを、
- 0806 pirka ye p²³
[おじいさんの言った] 良い話を

p.9

【原文翻刻】

Ahaita / yakne / wennankor ari / yainu an / kusu / shibini an / neipake omap / Aeshiyarbok / Ani kane / eaarmoisam / unwa / omanan / Akotani / moyotek / kotan / kotankurkashi / teshnatara /

²⁰ pakeomap : 「n. a kind of basket for carrying bundles. Syn. citarpe」(【バチラー辞典】 p.378)

²¹ これがどのような物なのか詳細には分からず、他に用例も見つからないが、un に「～にはまる」という意味があるので、太刀が骨にはまっている、すなわち柄の部分が骨で出来ているのではないかと考えて、このように訳した。

²² この物語においては irara という言葉が重要なはたらきをしており、ここでは主人公のおじいさんがこれから起きることを予言するような言葉を発している。後に、主人公もこの言葉を使い、海を守護するカムイ (atuykorkamuy) も使うことになる。『ユーカラ集』各巻における金田一京助の訳を参照しながら、それぞれの場所でやや異なった訳を当てるを試みた。

²³ pirkayep 「……が言っていたいい言葉」(【沙流辞典】、p.531)

Anramasu / Akikane / tane anakne / Akotani newa / moisam / kotan

【現代表記・訳】

- 0901 a=hayta yakne wen nankor>
僕がないがしろにしてはいけないだろう>
- 0902 ari yaynu=an kusu sipini=an.
と僕は思うので、身支度をする。
- 0903 ne pakeomap a=esiyarpokani²⁴ kane
その籠を脇に抱えて、
- 0904 earmoysam un wa²⁵ oman=an.
海岸の砂浜に向かう。
- 0905 a=kotani moyotek²⁶ kotan kotan kurkasi tesnatara.
僕の村は人の少ない村で、村の上が平らかに望まれる。
- 0906 an=ramasu a=ki kane tane anakne a=kotani ne wa moysam kotan
僕は楽しくなって、今や僕の村とモイサム村との

p.10

【原文翻刻】

shirupak / noshketa / nekuni / Aramu ita / shirepa / An awa / tap ikotbok ta / horepashi / shiyesaman / yan wa / shikisakisa / orowa / Earmoisam un / tap ikotchaot / omanruye an / Akari wa / omananko / ponno / omantekko / oat chikiri / Ainuchikirine / naa ponno / oman aine

【現代表記・訳】

- 1001 sirupaknoske²⁷ ta ne kuni a=ramu _hi ta sirepa=an wa
道半ばだろうと僕が思う場所に到着したところ
- 1002 tap i=kotpok ta horepasi
そのとき僕の前へ、沖の方から
- 1003 si esaman yan wa sikisakisa.
大きなカワウソが上陸して、ブルブルして水を振るい落とす。
- 1004 orowa earmoysam un tap i=kotcaot oman ruye an.
そうして、海岸の草の生えているあたりへ、僕の前に行く跡がある。

²⁴ esiyarurpokani 「～を脇に抱える」 (【奥田語彙】、p.28) ; aikapsam ma(wa) / i-e-shi-yarpok / ani kane 「左手にて 我が腋の下を 抱へつつ」 (【神謡・聖伝】「神謡 59」297 行目、p.266)

²⁵ earmoysam un oman=an で十分成立しそうであり、なぜ接続助詞の wa がここに入っているかが不明。幌別方言ではないが repun wa arpa などの言い方が存在しており (【ELPR 小田イト】、p.314)、同じような形式が念頭にあったか。

²⁶ moyotek kotan 「人すくなの郷」 (【ユーカラ集 7】、p.125)。なお、【動 1】村がにぎやかだ (【奥田語彙】、p.83)。

²⁷ cf. sirupaknoski : [位置名詞] 一つの地点からもう一つの地点へ行く途中のちょうどまん中あたりの所 (【沙流辞典】、p.661)

- 1005 a=kari wa oman=an ko ponno oman tek ko
僕はそこを辿って行くと、少し進むと
- 1006 oatcikiri²⁸ aynu cikiri ne naa ponno oman ayne
その片方の足が人間の足になり、もう少し進んだ後で

p.11

【原文翻刻】

uweturen / chikiri / Ainu chikirine wa / omanruye / makna tara / orowano / kashirarino / omananko
/ Ayemanu / moisam / kotan / borokotan / kotan kurka / maknatara / kotan / noshketa / borochise
/ Ashrukonna / mewnatara / ruyesan kari / hemakare / ruyehe / Akariwa

【現代表記・訳】

- 1101 ueturen cikiri aynu cikiri ne wa oman ruye maknatara²⁹.
両方の足が人間の足になって、進んでいく跡が明瞭に見える。
- 1102 orowano kasirarino oman=an ko
そして、すぐ後を僕は進んで行くと、
- 1103 a=ye manu Moysam kotan poro kotan kotan kurka maknatara.
人が呼ぶところのモイサム村、大きな村の、村の上面があざやかに見える。
- 1104 kotan noske ta poro cise as ru konna mewnatara.
村の中央に、大きな家が立つ様子が荘厳である。
- 1105 ruyesan kari hemakare ruyehe a=kari wa
浜へ降りる道に戻ってくる道を僕は通って

p.12

【原文翻刻】

chise soita / ek an wa / inkaranko / nepsui / moisam / unkuru / Akor / yubi / isonwa / shiran /
nankora / Inausan otta / kamui / sapani / yuk sapani / nitai ashruwe / shikobayar / chise soita /
kamui / kumatai / yukkumatai / chep kumatai / meinatara

【現代表記・訳】

- 1201 cise soy ta ek=an wa inkar=an ko
家の外へと僕はやって来て、眺めると
- 1202 nep suy Moysamunkur a=kor yupi ison wa siran nankor y_a
なんとまあ、モイサム人の僕の兄は狩上手な様子だろうか、
- 1203 inawsan or_ ta kamuy sapa ni yuk sapa ni
幣場には、熊の頭骨を祀る木や、鹿の頭骨を祀る木の

²⁸ oar- : [接頭辞] 片方の、一つの (【沙流辞典】、p.451)

²⁹ 【久保寺辞典稿】における様々な訳され方を参考にした。

- 1204 nitay as ruwe sikopayar³⁰.
林が立つかのである。
- 1205 cise soy ta kamuy kumatay yuk kumatay
家の外には、熊肉の掛け竿の林、鹿肉の掛け竿の林、
- 1206 cep kumatay mewnatara³¹.
魚の掛け竿の林が、壮麗である。

p.13

【原文翻刻】

kumatai / keshta / tap aani kane / Anan / pakeomap / neepkor an / pakeomap newa / Aeshibimpap / neepkor okai / usa omnmbe / usa hosh / rachitke / kane shiran / nekon neyakka / tap ikotchawot / ekbe / soyoshibitapa wa / Ahun / ruwene / noine shiran / shimushishka / An awa / chise upsoro

【現代表記・訳】

- 1301 kumatay kes ta tap a=ani(?) kane an=an³².
掛け竿の林の端で、何とこのように僕は持っている (?)
- 1302 pakeomap³³ neepkor an
簞のようなものがあり、
- 1303 pakeomap ne wa aesipinap³⁴ neepkor okay.
簞や身支度の物らしきものがある。
- 1304 usa omunpe usa hos racitke kane siran.
股引やら脚絆やらが、ぶら下がっている様子だ。
- 1305 nekon ne yakka tap i=kotcaot ek pe
どうにかして僕より先に来た者が、

³⁰ sapani という表現は他に類例が見当たらないが、沙流方言に yuk(kamuy) sapa un ni や yuk(kamuy) sapa o ni という表現があり、これと同様に熊や鹿の頭骨をまつる木(木の上端に頭骨を下げる)のことであろうと判断した。なお、萱野茂『炎の馬』では、「東側にある祭壇には、クマの頭やシカの頭の白骨がうず高く積まれていて」となっている(萱野 1977、p.18)。

³¹ 原筆録ノートには meinatara とあるが、meunatara (mewnatara) のことであろうと判断した。なお、【ユーカラ集】や【ユーカラシリーズ】で金成マツが meinatara という語形を用いている箇所は他に確認できないため、これは単純な書き間違えのようである。

³² この行の内容は、よく理解することができていない。

³³ pakeomap : 簞ノ一種、n. A kind of basket used for carrying bundles. Syn: Chitarpe (【バチラー辞典】、p.378)。

³⁴ cf. akot totto / tanto nisapno / ekimnean rusui na / nepka aeshipinap / okai chiki / sapte wa ikore yan! 「わが母 今日早く 山へわれ行きたい なにか身支度のもの あるなら 出してください よ!」(【ユーカラ集3】、p.107)。

- 1306 soyosipitatpa wa ahun ruwe ne noyne siran³⁵.
家の外で身支度を解いて入った様子である。
- 1307 simusiska=an awa cise upsoro
僕は（来訪を知らせる）咳ばらいをすると、家の中で

p.14

【原文翻刻】

humush / kane / humash / Aine / kanakan / kunip / soine wa / mosem / Aba otta / heheipap /
Anukar kusu / tanepo tapne / menoko ari / Ayep / Anukarkusu / Ayemanu / moisam / ummat /
Aikoresu / mat / nep sui / menoko / pirika wa

【現代表記・訳】

- 1401 humus kane humas ayne³⁶ kanak an kuni p³⁷ soyne wa
声がして、声がしているうちに、どのような者だかが外に出てきて、
- 1402 mosem apa or_ ta heheypa p a=nukar kusu
玄関の土間の入り口からのぞき見している者を僕は見て、
- 1403 tanepo tapne menoko ari a=ye p a=nukar kusu
今初めて女と言われるものを僕は見て、
- 1404 a=ye manu Moysamunmat a=i=koresu mat
モイサム媛と呼ばれる、僕の許嫁として育てられた女性は、
- 1405 nep suy menoko pirka wa
何とまた女性として美しい

p.15

【原文翻刻】

shiran / nankora / penramkata / chieurarko / noibakane / Atomte / resup neino / huinawano /
huinawano / Areka / pon menoko / Ikorshikraipap / bokishishir wano / Iuwanpare / kaishirkata /
Ikohebitare / kaishirkawano / Iuwanpare / Aine / bokishirkata / Ikohebitare / kaniborkashi /
koraikosampa

³⁵ 【沙流辞典】の soyosipitapita の項に、「客が来ている場合、狩猟などから帰宅した家人は、外で外套や靴をぬいでから家に入る習慣があった」とあるが (p.680)、ここで身支度を解いたのは、主人公の許嫁の兄モイサムンクルではなく、主人公に化けたカワウソのことを言っているようである。

³⁶ 【ユーカラ集 7】に tumbu oro / humash kane / humash aine 「曹子の中 声がする。 さんざん声がして」という箇所があるが (p.319)、ノートの記載では、どうもここは humash kane ではなく humush kane となっており、【久保寺辞典稿】にある humush kane 「音ありて」に対応するようである (p.101)

³⁷ cf. kanakan kunip rutkosanu 「如何なる者ならん、さっと入り来る」 (【久保寺辞典稿】、p.135)。なお、この訳の部分の一行は元の 1992 年版には記載されているが (p.119)、2020 年版では脱落しているようである。

【現代表記・訳】

- 1501 siran nankor y_a
様子だろうか、
- 1502 penram ka ta cieurarkonoypa³⁸ kane
胸の上に霞を引きまとい
- 1503 a=tomteresu p neno
大事に育てられた者らしく、
- 1504 huyhuyna wano³⁹ a=reka pon menoko i=kosikraypa p
どこからどこまでも賞賛すべき少女が、僕の方に目をやるが
- 1505 pokisir wano i=uwanpare kaisir ka ta i=kohepitare
下の方から僕をじっと見て、上体のところで僕を見終えて、
- 1506 kaisir ka wano i=uwanpare ayne pokisir ka ta i=kohepitare⁴⁰
上体から僕をじっと見て、下肢のところで僕を見終わり、
- 1507 kanipor kasi koraykosanpa⁴¹
額のあたりがさっと青ざめて

p.16

【原文翻刻】

ene itak i / usaine katap / shiran ruwe / Aoyamoktena / tap nahun / tanepo / otasut / unkuru / pon
akor / yubi / Ihotanukar ari / Itakkor / Ek wa kusu / Aahunke awa / sui nea / otasut unkuru / Ayubi
neep / korokane / Imihene / shibini / kane an kuru / Ekwa / eneshirani

【現代表記・訳】

- 1601 ene itak h_i
このように言う――
- 1602 “usayne ka tap siran ruwe a=oyamokte na.
「これはなんと、このような様子であることを、私は不思議に思いますよ。
- 1603 tap nahun⁴² tanepo Otasutunkur pon a=kor yupi
今ちょうど、オタスッ人、私の小さな兄が

³⁸ chieurarko- / noiba kane 「霞を 引きまとっている」 (【ユーカラ集 7】、p.241)

³⁹ huihuina wano : hui-hui 「どこもどこも」 na 「の方」 wano 「から」。どこからどこまでも (【ユーカラ集 1】、p.260)

⁴⁰ bokishir wano / iuwanpare / kaishir ka ta / ikohebitare / kaishir ka wano / iuwanpare / bokishir ka ikohebitare 「脚の方から 我をじいっと見て 上体の上に 我を見おわり 上体の上から 我をじいっと見しらべ 下脚へも 我を見おわって」 (【ユーカラ集 6】、pp.199-200)

⁴¹ kanipor kashi / koraikosanu 「その顔色の上 さっと変わり」 (【ユーカラ集 3】、p.277)

⁴² nahun : 只今、数日以前 adv. Just now. A few days ago. Just a little while ago (【バチラー辞典】p.310) ; さつき (【方言辞典】八雲、p.246)

cf. tap nahun pakno : 今の今まで (【久保寺辞典稿】 p.321)

- 1604 i=hotanukar ari itak kor ek wa kusu a=ahunke awa
私を訪問すると言いながら来るので、私は彼を入れたのですが、
- 1605 suy nea Otasutunkur
またそのオタスッ人、
- 1606 a=yupi nepkor kane imi hene sipini kane an kur
私の兄らしき服や外行きの支度を身にまとっている人が
- 1606 ek wa ene siran h_i
このように来る様子なのですね。

p.17

【原文翻刻】

patek ponno / Aoyamoktep / hoshkino / Ek kuru / iborko kunne / Awa tane / Ekkuru / Iborkoretar
/ yakka / moshma / ebittano / unepkoro / okai wa / ene shirani / taan / Ayubi / Ekimne wa / shinen
ane / Anan awa / rabokita / Ainu payekai / shiri okai / yakka

【現代表記・訳】

- 1701 patek ponno a=oyamokte p
ただ少し私が不審に思っているのは
- 1702 hoskino ek kur ipor ko kunne awa
さきに来る人は顔が黒くて
- 1703 tane ek kur ipor ko retar yakka
いま来る人は顔が白いのだけれど
- 1704 mosma epittano unepkor okay wa ene siran h_i
他は全てお互いに、このようによく似ているのです。
- 1705 taan a=yupi ekimne wa sinen a=ne an=an awa
この私の兄は山に猟に行つて、私が一人でいたところ、
- 1706 rapoki ta aynu payekay siri okay yakka
その間に人が訪れてくる様子なのですが、

p.18

【原文翻刻】

ene sui / ukoheraye / utara / okai i hetap / an wa / shiran ari / ponmenoko / Itak awa / chise upsorun
/ kanakatkorbe / tanrui itak ari / usaine tapsui / Awentureshi / tanepo / Ahotanukar / Awa usa /
Iberusui / Anwa kusu / tunashno / Asukere awa / neptapne / okkai hene / Ek apkor /

【現代表記・訳】

- 1801 ene suy ukoheraye⁴³ utar okay h_i he
 このようにまた、よく似た人たちがいることが、
- 1802 tap an wa siran”
 一体あるものでしょうか」と
- 1803 ari pon menoko itak awa
 と、少女が話したところ、
- 1804 cise upsor un kanakatkor pe⁴⁴ tan ruy itak ari
 家の中でいかなる者だかが、この大きな声で
- 1805 “usayne tap suy a=wenturesi tanepo a=hotanukar awa
 「これはまた、俺の悪い妹は、今しも私が訪ねてきたのだが、
- 1806 usa iperusuy=an wa kusu tunasno a=sukere awa
 俺は腹が減ったりしているので、さっさと煮炊きをするよう俺は言ったのだが
- 1807 nep tapne okay hene ek apkor
 何をこう男でも来るようで

p.19

【原文翻刻】

humashko / koparorui wa / ene hawe ani / taan / tunashno / shuke ari / Itakko / sonno / Aokai itak
 / an hawe / Ahawehe / ponnoka / somo / echutkono an / nepsui / Iyokunureneya / Aeramishkare /
 wenkinrane / Ikoheturi / Awoshma an / Inkaranko / ineapkusu / moisam un

【現代表記・訳】

- 1901 humas ko koparoruy wa ene hawe an h_i ta an.
 あって、そいつに向かってこのようにおしやべりをするのか。
- 1902 tunasno suke”
 早く料理を作れ」
- 1903 ari itak ko
 と言うと
- 1904 sonno aokay itak=an hawe a=hawehe
 本当に僕が話すこと、僕の声と、
- 1905 ponno ka somo ecutkono⁴⁵ an.
 少しも変わらない。
- 1906 nep suy iyokunure ne ya a=eramiskare.
 なんとまあ僕はびっくりしたことかわからない。

⁴³ ukoheraye : 似ている (【萱野辞典】 p.106) ; v.i. to resemble one another (【バチラー辞典】 p.525)

⁴⁴ kanakat : いかなる (胆振) / ~korpe いかなる人 (yukar 657) (【久保寺辞典稿】 p.135)

⁴⁵ ecutkono : adv. Diffently. Mistakenly. (【バチラー辞典】 p.104)

- 1907 wen kinra ne i=koheturi
ひどい怒りが僕にこみあげて
- 1908 awosma=an inkar=an ko ineap kusu Moysamunkur
家の中へ僕は飛び込み、あたりを見ると、なんとまあモイサム人は

p.20

【原文翻刻】

kuru / nishpa newa / shirannankora / kamui / korbe / chise / eshik / huihuinawano / Aerayap /
kashpa / hokaetok ta / sonnopoka / Imianruwe / neino an / Ainu / Iborko kunne / kaneambe /
Akane okai / Inukar awa / sonno / Shik tumkonna / Barssebarse / usaine tapsui

【現代表記・訳】

- 2001 nisha ne wa siran nankor y_a
長者である様子であろうか
- 2002 kamuykorpe cise esik huyhuyna wano a=erayap kaspā.
宝物が家を満たし、どこからどこまでも僕はだいに感嘆する。
- 2003 hokaetok ta sonno poka imi=an ruwe neno an aynu
横座にはやはり本当に僕のような服を着ている人間で
- 2004 iporkokunne kane an pe a kane okay.
色黒なやつが座っている。
- 2005 i=nukar awa sonno siktum konna parse parse⁴⁶.
そいつが僕を見たが、目の色がらんと燃えている。
- 2006 “usayne tap suy
「これはまた

p.21

【原文翻刻】

toatpon⁴⁷ wa kusu / tanto tanepo / moisam / ummat / Amachihi / Ahotanukarko / rabokitasui /
ene anan i / ene imi an i / neepkor an ainu / newa ek / shiri taan / sennepoka / nepka wen / Nitne
kamui / Ishinere wa / eneshirki i / taan ari / Arkami ashi / hoshki tashi / Aki kusu ne / Itak /
Ikotchaot no

⁴⁶ shik-tum konna / barsebarse kane 「目の色は らんと燃え parse 「(火が焰をあげて) 燃える」の反復形。parseparse が目の光のらんと光る形容に使われているもの。」(【ユーカラ集 2】 p.150)。なお知里真志保は、siktum konna parse kane に対して「ぎょろりとした目つき(にくにくしげな目つき)で見る; 目がぎょろりとしてにくにくしい」としている(【人間篇】 p.631)。ここでは、より単語の原義に近いと思われる金田一京助(ユーカラ集)の訳を当てた。

⁴⁷ この単語の2つめの t には、横棒が引かれていない。

【現代表記・訳】

- 2101 to at pon wa kusu⁴⁸ tanto tanepo
今日という今日の日に、今日初めて、
- 2102 Moysamunmat a=macihi a=hotanukar ko
モイサム媛、俺の妻を訪ねると、
- 2103 rapoki ta suy ene an=an hi
その間にまた俺の姿、
- 2104 ene imi=an hi nepkor an aynu ne wa ek siri ta an.
俺の服装にそっくりな人間が来る様子だ。
- 2105 senne peka nep ka wen nitne kamuy
もしや何か悪い魔物が
- 2106 i=sinere wa ene sirki h_i ta an”
俺に化けて、このようにしているのだろうか」
- 2107 ari arkamiasi hoski tasi a=ki kusu ne itak⁴⁹ i=kotcaot no
と、ひどい化け物が、先に僕が言うつもりを、僕より先に

p.22

【原文翻刻】

nepka / chararse / Apkor kane / yewa / Ikobashrota / Irushkaneya / nepneya / Ashik / etokota /
Abe mer mer / utashpa / pokor / yainu an / kane / shiyabekesh / Ateksaikare / honebeta / tan wen
/ Esaman / sonnohetap / Inkarkamui / shik⁵⁰ samata / Irarakashpa / shiri ene okai i

【現代表記・訳】

- 2201 nep ka cararse⁵¹ apkor kane ye wa i=kopasrota.
何かがすべり落ちるかのように「すらすらと」言って僕を叱りつける。
- 2202 iruska ne ya nep ne ya
怒っているのか何なのか、
- 2203 a=siketoko ta apemermer⁵² utaspa pokor⁵³ yaynu=an kane
僕は自分の前に火の光が交錯するように思い、

⁴⁸ 「今日という今日の日」という意味。「日はたくさんあるのに今日にかぎっての意。日数がないものではないのに今日自分が事を起こそうとする日に来たものだ [N]」（【ユーカラ集3】p.293）

⁴⁹ hoshki tashi a-ki kush-ne-p (hoski tasi a=ki kusu ne p)「先に俺がしようとしたのに」（【民譚集】pp.24-25）。

⁵⁰ k のすぐ左に s と書こうとした跡がある。

⁵¹ 具体的な場所を受けて ecararse という動詞になり、「走り去る、すべり落ちる」などの意味になる例は、金成マツの筆録ノートや知里幸恵に数多くみられるが、言葉が cararse する、という用例は他に見当たらない。ここでは類推で訳をあてている。

⁵² tu abe mermer 「数々の火の光」（【ユーカラ集3】p.420）

⁵³ pokor : (胆振) ...かの如く =pekor, apkor (【久保寺辞典稿】p.250)

- 2204 siapekes a=teksaykare
太い燃えさしを僕はさっと取って、
- 2205 “honepeta⁵⁴ tan wen esaman sonno he tap
「なんとまあ、この悪いカワウソがほんとうに、
- 2206 inkar kamuy sik sama ta⁵⁵
見物するカムイたちの眼の前で、
- 2207 irara kaspa siri ene okay h_i ta an⁵⁶
このようにいたずらが過ぎるのか。

p.23

【原文翻刻】

taan / hokure / hokure / kamui / utar obittano / tunashno / tunashno / hosarpawa / ikaobiuki wa /
Ikore yan ari / Itakan kane / Atoikokikkik / awa chahebita / shikopayar / Ieshikari / ukoterke an
wa / Inuan ike / nepsui / tum kor wa / okirashnu wa / humash / nankora / tane tane

【現代表記・訳】

- 2301 hokure hokure kamuy utar opittano tunasno tunasno hosarpa wa
さあさあカムイたちよ、みなが早く早く振り向いて
- 2302 i=ka opiwki wa i=kore yan”
僕をお助けくださいよ」
- 2303 ari itak=an kane a=toykokikkik awa
と僕は言って、そいつをめった打ちにしたところ、
- 2304 cahepita sikopayar⁵⁷
〔相手は〕しなやかな細枝が跳ね返るように、
- 2305 i=esikari ukoterke=an wa inu=an h_ike⁵⁸
僕につかみかかり、我々は組み合って、僕に聞こえてくるのは
- 2306 nep suy tumkor wa okirasnu wa humas nankor y_a
何とまた強く、力持ちな感じを受けることだろうか、

⁵⁴ honepeta 「ほんとにまあ」、ho (感声) nep 「何」 he 「か」 ta 「そこ」 (【ユーカラ集 1】 p.172)

⁵⁵ inkar kamui / shik samata 「見そなわす神の 目の前で」 (【ユーカラ集 6】 p.95)

⁵⁶ ta an は次頁の冒頭にあるのだが、ene oka hi とつながっているため、こちらの文末につなげて記すことにする。Ponyaumpe orowa / assianno- / raike wa / ene shirki-i / ta-an? 「ポイヤウンベからひとうちに 殺されて こんなさま なのか？」 (【ユーカラ集 4】 p.275)

⁵⁷ cahepita / sikopayar 「しなやかな小枝のはね起きる さながらに」 (【ユーカラ集 3】 p.482 など)

⁵⁸ ここでなぜ inu という動詞が使われるのかが不詳。後ろのモイサム媛がペウタンケしているところを先取りしているのだろうか。

p.24

【原文翻刻】

Iannokoiki / Anke humash / chiki / keutum otta / kamui / shikaopashte / Atureshipo / Arbewtanki / ekususuye / Akor pakeomap / bita bita / pone un / tashiro / sanke / rabokita / uboknare an / ukannare an / Ruye uchi / Akoreupa / Aneuchi / Akokekke / Atureshipo / pone un tashiro ari

【現代表記・訳】

- 2401 tane tane⁵⁹ i=annokoyki⁶⁰ anke humas ciki
今にも僕は負かされそうになると、
- 2402 kewtum or_ ta kamuy sikaopaste
心の中でカムイの救援を乞い
- 2403 a=turesipo arpewtanki ekususuye⁶¹
僕の妹（許嫁）は驚きの叫びを不意に放ち
- 2404 a=kor pakeomap pitapita pone un tasiro sanke
僕の籠の縛ってある所を全てほどき、骨柄の太刀（タシロ）を出し、
- 2405 rapoki ta upoknare=an ukannare=an
その間に、我々は互いに下になり、上になり、
- 2406 ruye uci a=korewpa ane uci a=kokekke
太い肋骨を僕は曲げ、細い肋骨を僕は折り、
- 2407 a=turesipo pone un tasiro ari
僕の妹（許嫁）は骨柄の太刀（タシロ）で、

p.25

【原文翻刻】

Arkamiashi / hokanashi / Anita / toiko tauki / toiko otkeko / Arkamiashi / usaine / tapsui / Awen machi / katun shiri / Aoyamoktena / nepkusu / Aokai / eitaui / eiotkeshiri / ene an i taan / taan kamiashi / hokure tauki / hokure otke ari / hawean / Aokai neyakka / Atureshipo / Akoorsutke /

【現代表記・訳】

- 2501 arkamiasi hokanasi⁶² an h_i ta
その化け物が上になっているところへ、
- 2502 toykotawki toykootke ko arkamiasi
ぶった切り、ひどく突くと、化け物は

⁵⁹ tane tane 今々、もう今にも（【ユーカラ集 1】 p.147）

⁶⁰ anno すっかり（【久保寺辞典稿】 p.xx）； Poncupkaunpe / ciannokoyki / a=ekarkar
（Ponchupkaunpe / chiannokoiki / aekarkar）「ポンチュプカ彦が 全く討ちまか された」（【ユーカラ集 3】 p.68）

⁶¹ arpewtanke ekususuye 驚きの叫びを振りしぼる、驚きの叫びを不意に放つ（【久保寺辞典稿】 p.23）

⁶² hokanasi 〔副詞〕（体の）上から（【神謡集辞典】 p.284）

- 2503 “usayne tap suy a=wenmaci katun siri⁶³ a=oyamokte na.
「これはまた、俺の悪い妻の振る舞いを見て、俺は驚くよ。
- 2504 nep kusu aokay e=i=tawki e=i=otke siri ene an h_i ta an.
どうして俺のことは、お前はどのように切りつけ、突いてくるんだ。
- 2505 taan kamiasi hokure tawki hokure otke”
こっちの化け物を、さあ切れ、さあ突け」
- 2506 ari hawean. aokay ne yakka a=turesipo a=koorsutke
と言う。僕も妹（許嫁）を励まして、

p.26

【原文翻刻】

orowano / tokesh wano / Aki ukoterke / tane shirkunne / Akar aine / hunak pakita / shiyesaman /
matmatke / pone un / tashiro / Aeshikari / seurihi / Aoattuye / nittek kewe / chishiturire / tata otta
/ heseturiri an / shinki an wa / tane isaman / Anke / rai an anke / yainu an / Atureshi

【現代表記・訳】

- 2601 orowano tokes wano a=ki ukoterke
そうして、夕方から我々がしている取っ組み合いを、
- 2602 tane sirkunne a=kar ayne
今や暗くなっても続けたあげくに
- 2603 hunak paki ta⁶⁴ siesaman matmatke⁶⁵
どれほど経ったか、カワウソのやつめがパッと立ち上がり（？）
- 2604 pone un tasiro a=esikari sewrihi a=oattuye.
骨柄の太刀（タシロ）を僕はつかみ、やつの喉を一気に切る。
- 2605 nittek kewe cisiturire.
こわばった骸が長く伸びる（横たわる）。
- 2606 tata or_ ta heseturiri=an sinki=an wa
ここにおいて、僕はほっとして息をつき、疲れてしまい、
- 2607 tane isam=an anke ray=an anke yaynu=an.
今や僕は息も絶えそうで、死んでしまいそうだと思う。

⁶³ katun siri (katun shiri) 「振舞うさま」(【ユーカラ集 6】p.74)

⁶⁴ hunak pakita いかほどか経って hunak 「どこ」 pak 「に及んだ」 ita 「時に」。「どれほどたった時にか、ふっと」(【ユーカラ集 1】p.132)

⁶⁵ matke 起き上がる、立ち上がる (【沙流辞典】p.371)；ふつと立上る、ぱつと立つ (【久保寺辞典稿】p.179)。しかし、matmatke になったときにどのような意味になるかは未詳。それまでは取っ組み合っていたので相手を斬ることができなかったが、一瞬相手が離れてパッと立った隙に斬ったということであろうか

p.27

【原文翻刻】

Asukere wa / chikimatekka / Anwa / Ibean orowa / ene itak ani / Atureshi / pirikano /
yaishikkashima wa / An okaketasui / ek an kusu ne / hunapak unsui / tanto / ek an kusu / Annitne
/ kamui / Aukasui wa / Araiike / tambe obittano / kamui / renkaine / nenankor / yakka / tantewano
/

【現代表記・訳】

- 2701 a=turesi a=sukere wa cikimatekka=an wa ipe=an
妹（許嫁）に僕は料理をさせ、急いで食事をして、
- 2702 orowa ene itak=an h_i
それからこのように言う――
- 2703 a=turesi pirkano yaysikkasima⁶⁶ wa an.
「我が妹（許嫁）よ、よく自分の身を守っているのだよ。
- 2704 okake ta suy ek=an kusu ne.
あとからまた、僕は来るつもりだよ。
- 2705 hunapak un suy⁶⁷ tanto ek=an kusu
ちょうど良い塩梅に今日僕が来たので、
- 2706 annitnekamuy a=ukasuy wa a=rayke
ひどい化け物カムイを僕たちは協力して殺した。
- 2707 tanpe opittano kamuy renkayne ne nankor. yakka tan te wano
これはすべてカムイのおかげであろう。でも、これからは、

p.28

【原文翻刻】

kamui / koramnukar / Akikusu / tanekuran / hoshibi anna / Itakan chiki / Atureshi / somonubesak
/ ekoobi / shiyesaman / Aeshikari / soyoshma an / oatek samta / bashno / karip / Ashikobayar /
kunneita / nekor oka / eshiri / orobeka / esaman / yan a ita / ek an wa

【現代表記・訳】

- 2801 kamuy koramnukar⁶⁸ a=ki kusu tanekuran hosipi=an na.”
カムイの意向をみるために、今晚僕は（自分の家に）帰るよ」

⁶⁶ この単語の金成マツによるこの単語の書き方は、yaysikkasma (yaishikkashma)と yaysikkasima (yaishikkashima)のあいだで揺れている。語形としては yaysikkasma ではないかと考えられ、ここではその形で記載することとする。

⁶⁷ hunapak un suy (hunapakunsui) さいわいに（【ユーカラ集3】p.97）；いいあんばいに（【ユーカラ集3】p.177）など

⁶⁸ koramnukar は、「ためす」（【久保寺辞典稿】p.62）、「誘惑する」（【萱野辞典】p.249；【バチラ一辞典】p.268）、「度胸・力量を見る」（【沙流辞典】p.334）などの訳が辞書にあるが、この場合には、ram(u)を nukar するという元の語構成を反映した意味が、最も文脈との収まりが良いようで、そのような訳を採用した。

- 2802 itak=an ciki a=turesi somo nupe sak ekoopi
と僕が言うと、僕の妹（許嫁）は涙も見せずに別れ、
- 2803 siesaman a=esikari soyosma=an.
その化けカワウソを僕はつかみ、外に出る。
- 2804 ota teksam ta pasno karip a=sikopayar⁶⁹
浜辺へと、僕は速く走る投げ輪のようで、
- 2805 kunne h_i ta ne korka
夜になってはいたが、
- 2806 esir⁷⁰ oropeka esaman yan a h_i ta ek=an wa
先ほどそこにカワウソが上陸した場所へとやって来て、

p.29

【原文翻刻】

nea / esaman / tanrikbeka / Atuisokurka / Akoeyapkir / eneitik ani / Inkar kusu / Atuikor / kamui / Annankorna / kamui / anakne / heru / kamui ne / urameroshki / Ainu anakne / heru / Ainune / urameroshki ne / Awa / newa atui / orowano / esaman

【現代表記・訳】

- 2901 nea esaman tan rik peka atuy so kurka a=koeyapkir
そのカワウソを、この高い場所から海面へと僕は投げ入れて、
- 2902 ene itak=an h_i
このように言う――
- 2903 “inkar kusu atuy kor kamuy an nankor na.
「さてさて、海を守護するカムイ（アトウイコロカムイ）がいるでしょう。
- 2904 kamuy anakne heru kamuy ne urameroski⁷¹
カムイというのは、同じカムイ同士で仲睦まじくし、
- 2905 aynu anakne heru aynu ne urameroski p ne awa
人間は、同じ人間同士で仲睦まじくするものですが、

⁶⁹ pashno karip / ashikopayar 「よく走る投げ輪 さながらに」（【ユーカラ集5】p.68、またp.292）

⁷⁰ この単語の金成マツによるこの単語の書き方は、esir (eshir)と esiri (eshiri)のあいだで揺れている。語形としてはesirで統一することとする。

⁷¹ この表現は【ユーカラシリーズ】にいくつか用例があり、kamui anakne / heru kamui ne / ainu anakne / heru ainu ne / urameroshki p / ne awa「神は まさしく神であり 人間は まさしく人間であり 互いの心をたてるもの であるが」（【ユーカラシリーズ35】p.208）。ただし、ここでのurameroskiは、「仲睦まじくする、愛し合う」という意味であるようで、【沼田資料】にkamuy anakne eru kamuy ne urameroski pe estap an ne「神はただ神同士で仲睦まじくするものです」という例があり、沼田武男はこの箇所をurameroskiに「愛しあふべき」という注を付けている（同p.54、5407-5408行）。

2906 newa⁷² atuy oro wano esaman
こうして海からカワウソの

p.30

【原文翻刻】

wenkamui / yanwa / Ishinere wa / naanika / Akoshikup / menoko / Ikoeikka / kashikobakta /
naanika / kiror / ukoiki ari / Iannokar / sonno / yaikeuhumsu an / wen irushka / toiirushka / Aki
kusu / tan esaman / toishiyorpa / wenshiyorpa / nepneushika / koyairambeutekno / Abanakte anke

【現代表記・訳】

- 3001 wenkamuy yan wa i=sinere wa
悪いカムイが上陸して、僕に化けて、
- 3002 naani ka a=kosikup menoko i=koeikka
あと少しで僕の許嫁として育てられた女を僕から盗むところで、
- 3003 kasikopak ta⁷³ naani ka kirorukoyki ari i=annokar⁷⁴
その上に、あと少しで力比べで僕をうち負かすところで、
- 3004 sonno yaykewhumsu=an⁷⁵
たいへんな災難に僕は遭い、
- 3005 wen iruska toy iruska a=ki kusu
ひどく怒り、激しく怒るので、
- 3006 tan esaman toy siyorpa wen siyorpa
このカワウソがひどい恥をかき、激しい恥をかき、
- 3007 nep ne usi ka koyayrampewtek⁷⁶ no a=panakte anke
落ち着きどころもない悪い死に方をするように、僕は罰しようと

p.31

【原文翻刻】

yainu an a / koroka / Atui orowano / yambe ne kusu / Atui kor / kamui / Eeraman / nankor kusu /
Etom aekokanuna / pirikakunine / esanniyo wa / Ikoreyan ari / Itakan orowa / terke ankane / bash
ankane / Aunihi / ruyesani / kari ek an awa / sennekasui / oropakita⁷⁷ / Abea kuni / Aramu ita /
Buraikari

⁷² newa 而シテ、マタ post. And. Also. (【バチラー辞典】 p.318)

⁷³ kashi-kopak ta その上に (【久保寺辞典稿】 p.139)

⁷⁴ Annokar v.t. to defeat (【バチラー辞典】 p.38)

⁷⁵ Yaikeuhumshu 災難ニ罹ル v.i. To meet with an accident (【バチラー辞典】 p.563)

⁷⁶ nep ne usi ka erampewtek : ～は落ち着くところも知らない (「何にもならない」悪い死に方)
(【神謡集辞典】 p.335)

⁷⁷ p の後ろに o と一旦書いて、消して a と書き直したような跡がある。

【現代表記・訳】

- 3101 yaynu=an a korka atuy orowano yan pe ne kusu
思ったのですが、海から上がってきたものであるから、
- 3102 atuykorkamuy e=eraman nankor kusu
海を守護するカムイ（アトウイコロカムイ）よ、あなたが分かっているでしょうから、
- 3103 e=tom a=ekokanu⁷⁸ na.
あなたの意向に僕は従いますよ。
- 3103 pirka kuni ne esanniyo⁷⁹ wa i=kore yan”
よきにはからってくださいな」
- 3104 ari itak=an. orowa terke=an kane pas=an kane
と僕は言う。それから、僕は走るように飛ぶように
- 3105 a=unihi ruyesani⁸⁰ kari ek=an awa
僕の家の浜に出る道を通してやって来たところ、
- 3106 senne⁸¹ ka suy oropakita⁸² ape a kuni a=ramu h_i ta puray kari
またその時までは火が燃えているだろうとは思わなかったのに、窓を通して

p.32

【原文翻刻】

Abenupek / maknatarako / Ainuhau / shir eshik / wen iyokunure / Akikane / habunno / Ikuira an
wa / Itomburai / otta oman an wa / Burai / oboso inkaranko / sennekasui / shirankuni / Aramu ai
/ shisosamta / Akor / Ekashi / chiminako / suibakane / rokwa okai / hokaetokta / Retarkosonte

【現代表記・訳】

- 3202 ape nupek maknatara ko aynu haw siresik.
火の灯りが明々として、人の声に満ちている。
- 3203 wen iyokunure a=ki kane hapunno⁸³ ikuyra=an wa
僕はひどく驚いて、こっそりと忍び寄って
- 3204 itompuray or_ ta oman=an wa puray oposo inkar=an ko
家の右側の窓へ行って、窓を通して中を眺めると、

⁷⁸ tom(o) kokanu 【連他動】～に忠実に従う（【沙流辞典】p.720）；tom-kokanu/tomo-kokanu 任せる、一任する（【久保寺辞典稿】p.331）；Tomkokanu 為スヲ委任スル v.t. To commit to others to do（【バチラー辞典】p.504）。ただし、金成マツは tom(o) ekokanu という形で用いているようだ。参考 kamui tomo / aekokanu na「神慮を 我うかがおう」（【ユーカラ集 5】pp.297-298）。

⁷⁹ wa i=kore の前は命令形になるので、ここは e=sanniyo という自動詞ではなく、esanniyo という他動詞であるらしい。

⁸⁰ この語は上の 1105 行目で ruyesan と概念形で出てきたが、ここは「私の家の」から続くので所属形になっている。

⁸¹ senne が否定辞。参考 senneka shiran kuni ramu ahi「思ヒモカケズ」（【久保寺辞典稿】p.284）

⁸² oropakita 【副】そのときまで（【千歳辞典】p.134）

⁸³ hapunno ひそかに、こっそり（【久保寺辞典稿】p.83）

- 3205 senne ka suy siran kuni a=ramu a h_i
まったくそうであるとも予想もしなかったことに、
- 3206 siso sam ta a=kor ekasi ciminakosuyapa kane⁸⁴ rok wa okay.
右座の側に僕のおじいさんが微笑みを浮かべて座っている。
- 3207 hokaetok ta retar kosonte
横座には白い小袖を

p.33

【原文翻刻】

mikamui / awa okai / kirsamata / kunne / kosonte / mikamui / ehorari / uturketa / Retar kosonte /
mi pon / kamui / menokonewa / kunne / kosonte / mi kamui / moire mat / rokwa / oripakkane okai
/ rotta / Rebun / chikoikip / usa rika / usa kam

【現代表記・訳】

- 3301 mi kamuy a wa okay.
着たカムイが座っている。
- 3302 kirsam ta kunne kosonte mi kamuy ehorari.
そのかわりに黒い小袖を着たカムイが座っている。
- 3303 uturke ta retar kosonte mi pon kamuy menoko ne wa
その間には、白い小袖を着た小柄なカムイの女性と
- 3304 kunne kosonte mi kamuy moyremat rok wa oripak kane okay.
黒い小袖を着たカムイの尊い女性が座って、二人ともかしこまっている。
- 3305 ror_ ta repun cikoykip usa rika usa kam
横座には、海の獲物が、クジラの脂身やら肉やら

p.34

【原文翻刻】

boro niyeshike / An kane / shiran / nei samaketa / sui kimun /chikoikip / kamui / haru / kambiyeyi
/ kirbubiyeyi / boroniyeyi / shike an kane / shiran / kamui / menoko / utar / oshmaketa / kamui /
ketushi / kaniketushi / tomo tar / Echiu kane

【現代表記・訳】

- 3401 poro niesike (niyesike)⁸⁵ an kane siran.
大きな背負い荷がある様子だ。
- 3402 ne samake ta suy kimun cikoykip
そのそばにはまた、山の獲物が

⁸⁴ chiminako / suiba kane 「微笑みを 浮かべながら」 (【ユーカラシリーズ3 4】 p.184) ; 「破顔大笑している」 (【ユーカラシリーズ4 5】 p.116)

⁸⁵ niyesike 【名】背負い荷 (【沙流辞典】 p.430)。幌別の他の資料では当面のところ用例が見つからない。

- 3403 kamuy haru kam piye h_i kirpu piye h_i
熊の食料の肉の脂身、白肉の脂身の
- 3403 poro niesike (niyesike) an kane siran.
大きな背負い荷がある様子だ。
- 3404 kamuy menoko utar osmake ta
カムイの女性たちの後ろには
- 3405 kamuy ketusi kani ketusi tomo tar eciw⁸⁶ kane siran.
カムイの背負い袋、金の背負い袋が、その胴に縄を掛けてあるのが見える。

p.35

【原文翻刻】

shiran / kamui / utara / neita / Akor / Ekashi / Amkirbe / korachi / tane eashiri / ramuoshiwano /
ukoitak / uweneusar wa / Inuanko / kamui / orushbe / patek / eukoisoitak / tumina itak / remina
itak / utashpare / Aunchise / oshkehe / kamui

【現代表記・訳】

- 3501 kamuy utar ney ta a=kor ekasi amkir pe koraci
カムイたちはどこかで僕のおじいさんと顔見知りになっている者のようで、
- 3502 tane easiri ramu osi wano ukoytak uenewsar wa inu=an ko
いま本当に心の底から話し合い、よもやま話をして、僕が耳を澄ましていると、
- 3503 kamuy oruspe patek eukoysoytak
カムイの話ばかりを語り合って、
- 3504 tu mina itak re mina itak utaspere.
二つの笑顔の言葉、三つの笑顔の言葉を交わす。
- 3505 a=un cise oskehe
我々の家の中は

p.36

【原文翻刻】

utara / hawehe⁸⁷ ari / shiri / bebunitara / nepsui / Aekiroro anwa / humash / nankora / kamui /
utara / shine itak / eupamko / uina hawe / ene okai i / hokure / Aturesh / utari / shukeyan /
Ibetuikata / herukamui / Anewa / shine anchikar / somo mokoran

【現代表記・訳】

- 3601 kamuy utar hawehe ari siri pepunitara.
カムイたちの声でもって様子がにぎやかだ。

⁸⁶ tomo tar echiu 「その胴体に負い縄を掛け」（【ユーカラ集1】p.413）

⁸⁷ 2つめの h の後ろに aw とでも書こうとしたような跡があり、それが横線で消され、上に e が補われている。

- 3602 nep suy a=ekiroroan wa humas nankor y_a
何とまた人々が楽しんでいる感じだろうか
- 3603 kamuy utar sine itak eupae mkouyna⁸⁸ hawe ene okay h_i
カムイたちがひと言葉に相手の口尻を捉えて言うのは、次のようだ――
- 3604 “hokure a=turesutari suke yan. ipe tuyka ta⁸⁹
「さあ、私の妹たちよ、料理をしなさい。食事をしながら、
- 3605 heru kamuy a=ne wa sine ancikar somo mokor=an yakka
私たちはカムイ同士で、一晩眠らずにでも

p.37

【原文翻刻】

yakka / ormaskino / chise kor / kamui / A kateomare / kusu / shirbekere / bakno / okai an kusu
nena / Ari hawokai / Awa itak / etoko kamui / menoko utara / Ehobumpa / Iwanattush / boro shu
ari / shisakbe / pirikai / shuorotauki / shuipa wa / yapte / rabokita / Akor

【現代表記・訳】

- 3701 ormaskino cise kor kamuy a=kateomare kusu
たいそう家を守護するカムイ（チセコロカムイ）のことを私たちは好きなので、
- 3702 sirpeker pakno okay=an kusu ne na”
夜が明けるまでこうしていきましょうぞ」
- 3703 ari hawokay awa itak etoko kamuy menoko utar ehopunpa
と言ったが、言葉の先にカムイの女性たちは立ち上がり、
- 3704 iwan attus⁹⁰ poro su ari sisakpe pirka h_i su oro tawki suypa wa yapte.
六本のつるの付いた大鍋で、美味しい物の良い部分を鍋へと切って、煮て、鍋を上げる。
- 3705 rapoki ta
その間に

p.38

【原文翻刻】

Ekashi / ene itak i / Inkar kusu / kamui / ekashi / Irukai nena / useno / soine wa / Ashiri / Shisakbe
e wa / kamui / huchi / koimekare yan / Ari hawe an awa / seennekasui / Shirki kuni / Aramurok i
/ hoka nosh ki / Shibuni / buni aine / kankan / kunip / Akor

⁸⁸ shine itak / eupae mko- / uina kane 「ひとつ言葉を まだ終らぬうちに 承け継いで」（【ユーカラ集 5】 p.84.）

⁸⁹ ibe tuikata 「食事しながら」（【ユーカラ集 4】 p.302、p.357 ; 【ユーカラ集 7】 p.248）

⁹⁰ iwannattush 「六つのつるのある」 iwan-at-ush であって、n が一つ誤って入ったもの。iwan 「六」 at 「ひも、縄」。鍋の耳に六つの孔があって、su-at（鍋づる）が六本ついていたとは大鍋の称（【ユーカラ集 1】 p.322）

【現代表記・訳】

- 3801 a=kor ekasi ene itak h_i:
僕のおじいさんはこのように言う――
- 3802 “inkar kusu kamuy ekasi irukay ne na,
「さてさて、カムイのお爺さん（火の翁）よ、少しの間ですから、
- 3803 useno⁹¹ soyne wa asir sisakpe e wa
こちらに（別に）出てきて、新しい美味しいものを食べて、
- 3804 kamuy huci koimekare yan”
カムイのお婆さん（火の媼）にも食事を差し上げてくださいな」
- 3805 ari hawean awa seenne ka suy sirki kuni a=ramu rok h_i
と言うと、よもやまさかそんなことになると思っていなかったのに、
- 3806 hoka noski sipunipuni ayne kanakan kuni p
炎のまん中が持ち上がり持ち上がりしたあげく、いかなる者だかが

p.39

【原文翻刻】

Ekashi / rorkecheta / rokwa / Aimoire / obittano / uwekap / Inkaranko / hure kosonte / mi kamui /
Ekashi / hure boro / tambakop / Ani kane / minaturano / ukoitak / nepsui / Iyokunure neya /
nepneya / Aerambetek / kamui / menoko utar / Imek wa / kaparbe

【現代表記・訳】

- 3901 a=kor ekasi rorkehe ta rok wa a h_i moyre⁹² opittano uekap.
僕のおじいさんの上座の側に座って、座るとすぐに皆が互いに挨拶する。
- 3902 inkar=an ko hure kosonte mi kamuy ekasi
僕がみると、赤い小袖を着たカムイのお爺さん（火の翁）が、
- 3903 hure poro tampakop ani kane mina turano ukoytak.
赤い大きな煙草入れを持ち、笑顔で話を交わしている。
- 3904 nep suy iyokunure ne ya nep ne ya a=erampetek.
何とまた驚くのか何なのか、僕には分からない。
- 3905 kamuy menoko utar imek wa
カムイの女性たちが食べ物配り、

p.40

【原文翻刻】

ochike / Itachikishma / Isamkane / rupne / sonabi / Akor / Ekashi / hoshkino / Akobuni / kamui /
utara / obittano / rupne / Imek / koonkami wa / ibepa / kamui / huchi / ebihi ari / hawashkor /

⁹¹ useno 【副】別に、出て（【沙流辞典】p.788）；そのまま（【萱野辞典】p.110）

⁹² aimoire 「すわるや否や」（【ユーカラ集7】p.103）

kamui / Ekashi / samaketasui /

【現代表記・訳】

- 4001 kaparpe ocike ita cikisma isam kane⁹³ rupne sonapi
薄造りのお膳に、盆をつかむところがないほど一杯に、大きな高盛のご飯を
4002 a=kor ekasi hoskino a=kopuni
僕のお爺さんへ先に差し出し
4003 kamuy utar opittano rupne imek koonkami wa ipepa
カムイたちは皆、たくさん盛られた食事を、拝礼（オンカミ）しながら食事をし、
4004 “kamuy huci epihi”
「カムイのおばあさん（火の媼）の食事だよ」
4005 ari hawas kor kamuy ekasi samake ta
と言いながら、カムイのお爺さん（火の翁）のそばに

p.41

【原文翻刻】

boro ochike / shikkane / Aiyowa / Aante kane / orowano / kamui / utara / Ibetuikata / pirika /
orushbe / kamui / orushbe / euweneusar / orowano / Ikokanu an / sonnonewa / ramoshiwano /
Iyokunure an / chinomi / kamui / okai kusu / Anomip ne / koroka

【現代表記・訳】

- 4101 suy poro ocike sik kane a=io wa a=ante kane
また大きなお膳が一杯になるまで、食事をよそって差し出して
4102 orowano kamuy utar ipe tuyka ta
そうしてカムイたちは食事のあいまに、
4103 pirka oruspe kamuy oruspe euenewsar
良い話、カムイなる話を語り合い、
4104 orowano ikokanu=an sonno ne wa ram osi wano iyokunure=an.
そうして僕は耳を傾けて、本当に心から驚く。
4105 cinomi kamuy okay kusu a=nomi p ne korka
祀られるカムイがいるから、人は（私たちは）祈りの言葉を捧げるものなのだが、

p.42

【原文翻刻】

ohana kusu / nepkamui / utarta / okai wa / tureshturano / rupne / shikeki wa / Aunchiseta / Irukai
/ Isaman / Rapokita / Arkiwa / Akor / Ekashi turano / hushkotoiwano / unoamkirbe / korachi no /
uwekatarotkeno / ukoitak hawe / okai chiki / shino iyoyamokte / Ankane / tane ibeokerpa

⁹³ ita cikisma isam kane : お盆をつかむところもないほど（いっぱい）（『千歳方言辞典』 p.34、p.189）。これで一つのまとまった表現になっているようだ。

【現代表記・訳】

- 4201 ohana kusu⁹⁴ nep kamuy utar ta okay wa
まさか何のカムイたちがいて、
4202 tures turano rupne sike ki wa
妹とともに大きな荷を作って
4203 a=un cise ta irukay isam=an rapoki ta arki wa
僕の家、ちょっと僕が留守にしている間に来て、
4204 a=kor ekasi turano huskotoy wano ukoamkir⁹⁵ pe koracino
僕のお爺さんとも、昔から顔見知りであるかのように
4205 uekatarotke no ukoytak hawe okay ciki sino ioyamokte=an kane
仲良く話し合っているというのは、とても僕はびっくりして、
4206 tane ipe okerpa.
今や（カムイたちは）食事を終えた。

p.43

【原文翻刻】

Inkaran / Aine tane / bekennisat / kunne nisat / okutekari / tanepo / ekbe / Ashikobayar / chise
samkata / Apkash / Anhumu / tunash / tunash / Abaotta / Ahun an awa / kamui / utara / shine ikinne
/ Aba tuika un / Ikohosarpa / homatpa / ruibe / nepne kusu

【現代表記・訳】

- 4301 inkar=an ayne tane peken nisat kunne nisat okutekari⁹⁶
僕が見ると、今や東雲の朝と關の暁が行き違い、
4302 tanepo ek pe a=sikopayar cise samka ta apkas=an humi
今はじめて来た者と僕は見せかけて、家の近くへ歩く様子は
4303 tunas tunas apa or_ ta ahun=an awa
急ぎ足急ぎ足で、戸口を僕は入ったところ、
4304 kamuy utar sine ikinne apa tuyka un i=kohosarpa
カムイたちはいっせいに入口へと僕の方を向き、
4305 homatpa ruy pe ne p ne kusu
ひどく驚くものだから

⁹⁴ ohana kusu 「もしや」 ohana-kusu 「まさか〜ではあるまいな、もしや〜でもあろうか」 (【ユ
ーカラ集 4】 p.169)

⁹⁵ 原ノートに従うと unoamkir となるが、この n は k を書き間違えたのであろう。

⁹⁶ peken nisat kunne nisat okuetari : 東雲の朝とやみのあかつきとが行違ひて明放れ (【久保寺辞
典稿】 p.241)

p.44

【原文翻刻】

hokaetokta / okai / tu kamui / humse / turano / Rorun / Buyar / makekatta / toop / soyoterkepa /
Itomburai kari / kamui / menoko / utara / ukosoyoshma / kamui / Ekashi / boro iyo / ochike /
eshikari / boro Abe / hoka / kuttom

【現代表記・訳】

- 4401 hokaetok ta okay tu kamuy humse turano
横座にいる二人のカムイが掛け声とともに
4402 rorunpuyar makekatta toop soyoterke pa
神窓をぐいっと開けて、遠くサッと跳ねて、
4403 itompuray kari kamuy menoko utar ukosoyosma
南側の窓からカムイの女たちが一緒に外に出て
4404 kamuy ekasi poro io ocike⁹⁷ esikari
カムイのお爺さん（火の翁）は大きなお盆を掴んで、
4405 poro ape hoka kuttom korawosma.
大きな炎の中へと飛び込む。

p.45

【原文翻刻】

korau oshma / Akor / Ekashi / Iyoikir kurka / koanu kuri / tuikosanu / kurihi / uwebanbamke /
pokor / yainu anko / nepka isam / Akor / Ekashika / ohakochi / patek an / inkar hetap / neptap /
Akihumi / Akishiri / okai chiki / eashka / Iyokunure an / Akor

【現代表記・訳】

- 4501 a=kor ekasi iyoykir kurka koanu kuri tuykosanu⁹⁸
僕のおじいさんは、宝壇の上へと寄る影がつと消え、
4502 kurihi uepanpanke⁹⁹ pokor yaynu=an ko nep ka isam.
影が相互いに薄れていくように僕は思うと、何もなくなってしまう。
4503 a=kor ekasi ka oha koci patek an.
僕のおじいさんも、空っぽの跡ばかりになる。
4504 inkar he tap nep tap a=ki humi a=ki siri okay ciki
（本当に）見たのだから、いったい何を僕はしているのかなど、

⁹⁷ 織田ステノさんに poro iop「大きな入れた袋」という用例があり（【静内伝承 V】p.268）、これと似た表現か。なお、【静内伝承 V】では、iop の横にクエスチョンマークが付されている。

⁹⁸ cf. nei ushike / koanukuri / tuikosanu「その場所に あった影が ふと消えた」（【ユーカラ集 5】p.86）

⁹⁹ cf. akohosari awa / urar ne kusu / kurihi banbanke / uwechanchanke / oarar isam「我振り返ったら 霧であるゆえ 影がうすれて 相消えてゆき 全く無くなる」（【ユーカラ集 7】p.333）

4505 easka iyokunure=an¹⁰⁰. a=kor ekasi
本当に僕は驚く。僕のおじいさんは、

p.46

【原文翻刻】

Ekashi / neun / oman wa / isam / ruwe taan / tap anpokor / yainu an awa / Akor / Ekashi /
enehetapne / Ireshpa / shiri okai kusu / tewano / chironnup / poka / yaikota / Atomot yakne /
orhetopo / Ahorkaresu / Anunuke / kuni patek / Aramu awa / tanto

【現代表記・訳】

- 4601 neun oman wa isam ruwe ta an.
いったいどこに行ってしまったのであろうか。
- 4602 tapan pokor yaynu=an awa
このように僕は考えたが、
- 4603 a=kor ekasi ene he tapne i=respa siri okay kusu
おじいさんがあれほどまでも僕を育ててくれていたので、
- 4604 tewano cironnup poka yaykota a=tomot yakne
これからは狐すら自分で見つけたら、
- 4605 orhetopo a=horkaresu a=nunuke kuni patek a=ramu awa
反対に僕が（おじいさんを）養い、大事にしようとばかり思っていたのに、

p.47

【原文翻刻】

pookane / Amachi / orun / Iomanteko / wen yaihumusu / Akiwa / Ek an awa / nep kamui / newa /
Arkip / Iokaketa / Akor / Ekashi turano / Ibeshiri / Aenushi kari / humi / An awa / Akor / Ekashi
/ neun / omanruwe / taanko / Aritak

【現代表記・訳】

- 4701 tanto poo kane¹⁰¹ a=maci or un i=omante ko
今日、ちょうど僕の妻のところへ僕を行かせ、
- 4702 wen yayhumusu¹⁰² a=ki wa ek=an awa
ひどく不意の出来事に僕は遭って帰って来たところ、

¹⁰⁰ 金成マツ氏による知里真志保宛筆録ノートの散文説話に、easka inkar he tap? neptapteta a=ki humi nankor'a? sonno yaynuturaynu=an pakno iyokunnure=an 「ほんとに見たのか？何ということをしてここで俺はしたのか！ほんとに我を忘れるほど驚いた」という例があり、これを参考にした（蓮池悦子訳注「鹿の腹の中で赤ん坊が泣く 2」『アイヌのくらしと言葉 5』北海道教育委員会、1999 年、p.206）

¹⁰¹ poo kane 「丁度そこへ」 非常に砕けた口調であって、日高のユーカラには聞くことの無い語調。ほかでもないちょうどということを強調して、poo と長く引いた。前語の語尾へ結合する指小辞の po の用法の一（【ユーカラ集 1】p.88）

¹⁰² Yaihumshu 不意ノ出来事 n. An accident（【バチラー辞典】p.561）

- 4703 nep kamuy ne wa arki p i=okake ta a=kor ekasi turano ipe siri
何のカムイがやって来て、僕がいなくなった後にお爺さんと食事をするのか、
- 4704 a=enusikari humi an awa a=kor ekasi neun oman ruwe ta an ko
僕は目を丸くして驚く気持ちであったが、おじいさんはどこに行ったというので、

p.48

【原文翻刻】

chinki / Ikohoppa / somoki / shiri okai chiki / nubekorapapse / Ankane / hokaetokne / Aehorari /
Aani moire / shinki / Ambe nekusu / Ayaitemnikor / eshisuye / mokonrusui / an amset ka un /
omananka / nukuri kusu / Abesamta / Atusaha / Aetutturi wa / hotke an awa / pirika mokor /
Iannoye kar

【現代表記・訳】

- 4801 aritak cinki i=kohoppa somo ki¹⁰³ siri okay ciki
一言の端も僕に遺すことがなかったなあと
- 4802 nupekorapapse=an kane hokaetok ne a=ehorari.
僕はぼろぼろと涙をこぼして、炉の前に座る。
- 4803 a=an h_i moyre sinki=an pe ne kusu
僕は座るやいなや、疲れているものだから、
- 4804 a=yaytemnikoresisuye¹⁰⁴ mokonrusuy=an.
自分の両腕の間にこくりこくりして、眠くなる。
- 4805 amset ka un oman=an ka nukuri kusu
寝台の上へと行くのも億劫なので、
- 4806 ape sam ta a=tusaha a=etutturi wa hotke=an awa
火のそばで自分の袖を伸ばし伸ばしして、横になったところ、
- 4807 pirka mokor i=annoyekar.
良き眠りが僕をからめとる。

p.49

【原文翻刻】

Ierupshiketa / Akor / Ekashi / kamui / shirine anwa / Iehoseno / Anaine / Ihekota / shikiruko /
sancha otta / minakane / Ihenkotpa kor / ene hawe / Ani inkarkusu / tan ainu / Anitpo / Itakan
chiki / pirikano / nuyan / nep ainu / hene ane wa / ponram orowano

¹⁰³ cf. ikishma poka / somoki / aritak chinki / ikoturainu 「我を抱きしめも せず ただ一と言の端も
我にかけぬ」(【ユーカラ集7】p.166)

¹⁰⁴ yaytemnikoresisuye で自動詞のはずなので、人称接辞としては=an が付きそうであるが、金成
マツは冒頭に a=を付けることが多い。なぜこのような形になるのかは、よく分からない。

【現代表記・訳】

- 4901 i=erupsike ta a=kor ekasi kamuy siri ne an wa
僕の枕上に、僕のおじいさんが、いかにもカムイの様子でいて、
- 4902 i=hose no an ayne i=hekota sikiru ko
しばらく僕に背を向けていてから、僕に向かって向き直ると、
- 4903 sanca or_ ta mina kane i=henkotpa kor ene hawe an h_i
にっこりとほほ笑んで、僕にうなづきながら、次のように言うには――
- 4904 “inkar kusu tan aynu a=nitpo itak=an ciki pirkano nu yan.
「さあ、この人間のわしの孫よ、わしが話すからよく聞くのだよ。
- 4905 nep aynu hene a=ne wa ponram oro wano
何の人間でわしはあって、小さい時分から

p.50

【原文翻刻】

eresu anruweka / somone / ruwe ne / chisesopata / horari / chise koro / kamui / Ane ruwene / teeta
kane / otasut / unkuru / Eonaha / sonno / keutum / pirika / Nishpa newa / shinokatkeemat / hekotewa
/ uwepirika kor / okai shine / hekachi / enewa / eshiko

【現代表記・訳】

- 5001 e=resu=an ruwe ka somo ne ruwe ne.
お前を育てたのでもないのだよ。
- 5002 cise so pa ta horari cise kor kamuy a=ne ruwe ne.
家の座の上手に鎮座する、家を守護するカムイでわしはあるのだ。
- 5003 teeta kane Otasutunkur e=onaha sonno kewtum pirka nispā ne wa
昔、オタストウンクルお前の父は、たいへんに心の美しい長者であって、
- 5004 sino katkeemat hekote wa uepirka kor okay.
本物の淑女と連れ添って、ともに暮らし向きが良くなっていた。
- 5005 sine hekaci e=ne wa e=siko.
お前はその一人息子として生まれた。

(ふじた まもる・慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学部)

Aynu Oral Text in the Written Notebooks by KANNARI Matsu
Prose Tale (uepeker) "An Otter Disguising as Myself (esaman i=sinere)"
Written for KINDAICHI Kyosuke

FUJITA Mamoru

This article forms part of a series of effort by the author to make accessible the oral texts written down in Aynu language by Kannari Matsu, in the notebooks that were passed on to Kindaichi Kyosuke and Chiri Mashiho. Here we publish the prose tale “esaman i=sinere uepeker” where the main protagonist (*Otasutunkur*) battles with the evil otter (*esaman*) that tries to steal his betrothed partner in the village of *Otasam*, followed by conversations with different deities (*kamuy*) about the battle, the fate of the otter, and of the protagonist himself. In the introductory section, we lay out the philological details of the text and the notebook, followed by an outline of the story in Japanese. After some remarks on the Aynu orthography employed here, we present the main part of this article, which is a faithful page-by-page transcription of the original written Aynu text, followed by a modified text with contemporary Aynu orthography and its translation to Japanese.